

# 子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

## 論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Appropriate procedures to increase the adherence of children to blood collection: A cross-sectional study

和文タイトル:

小児が採血を支持するための適切な方法——横断的研究

ユニットセンター(UC)等名: 甲信ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Health Science Reports

2022年: DOI: 10.1002/hsr2.1036

筆頭著者名: 由井 秀樹

所属 UC 名: 甲信ユニットセンター

目的:

本研究では、局所麻酔で採血を行った健康な 7~8 歳児を対象に、採血を伴う健診の満足度に影響を与える要因について検討した。

方法:

8歳学童期検診に合わせ実施される山梨独自の総合健診(採血を含む)を受けた子どもへのアンケート(n=492)及びインタビュー(n=20)を分析した。アンケートは、健診の満足度をアウトカムとし、事前の情報提供、痛みの度合い、性別との関係をロジスティック回帰分析を用いて分析した。インタビューは複線径路当時性モデル(TEM)を用いて分析した。

結果:

多くの子どもが採血経験を最終的には肯定的に解釈していた。アンケート調査の分析では、女兒であること、痛みの度合いが低かったこと、情報提供用のパンフレットを事前に読んでいたことが、採血経験の満足度の高さと関連していたことが示された。インタビューでは、事前の情報提供や局所麻酔、ディストラクション等の工夫を施すことで、当初、採血をネガティブに捉えていた子どもであっても、多くの場合で最終的には肯定的に採血経験を肯定的に解釈できるようになることが示された。

考察(研究の限界を含める):

子どもが採血経験を肯定的に評価できるようにするために有効な方策が示唆された。すなわち、(1)なぜ採血をするのか、パンフレット等で情報提供する。(2)採血の量は少量であること伝える。(3)局所麻酔のリスクとベネフィットを保護者に丁寧に説明する。(4)採血作業は迅速かつ簡潔に行う。(5)強い恐怖や痛みを感じたり、採血に時間がかかるケースは、苦痛を完全になくすことはできないので、処置終了後すぐに周囲の大人が子どもの努力と協力を感謝を示す。第六に、血液を研究に利用する場合は、研究結果を子どもに理解できるように伝える。限界として、子どもが気を遣って採血経験を肯定的に表現した場合のある可能性がある。

結論:

採血に伴う痛みと恐怖は、ある種の対策によって軽減できることが多いことを示された。また、子どもの採血に対する最初のネガティブな感情は、事後的に肯定的な評価に変わることがあることを明らかにされた。